

# 小鳥のビオトープを作るポイント

1

いろいろな小鳥がやってくるように、できれば複数の食餌植物を植えるようにしましょう。

2

小鳥の食べものは、自然の木や草の実や昆虫などですが、食べものが少なくなる冬は、エサ台を置いて少しでも食べものを探す手伝いをしてあげると良いでしょう。

3

バードバス<sup>※1</sup>を作る場合は、小鳥が安心して水飲みできるように見通しの良い明るい場所に置き、石を入れ深さを調整するなど工夫してあげましょう。

## 小鳥の観察モニター編



# 身近なビオトープづくり



コゲラ



ヒヨドリ

目名	科名	種名	大きさ	特徴	好む樹木・草花	マップ番号
ハト	ハト	キジバト	中型 (33cm)	背中にある縁取りが特徴。昔は「やまばと」とも呼ばれたが、いまは都会でも普通の鳥になった。留鳥。 <sup>※2</sup>	【樹】エゴノキ、ウメモドキ、モチノキ、ヤマザクラなど	④
キツツキ	キツツキ	コゲラ	小型 (15cm)	背中にある黒白の縞が特徴。「ギー、ギー」と鳴きながら、木の幹や小枝をつたって昆虫などを採る。留鳥。平成4年に小平市の鳥に制定された。	【樹】キハダ、ヌルデ、ハゼ、マコモなど	表紙
		アオゲラ	中型 (29cm)	背面は黄緑色、腹部は白地に黒い縞がある。「ピョー」と甲高い声で鳴く。本州以南に見られる、日本特産種。留鳥。	【樹】ハゼ、ウルシ、ムラサキシキブ、ガマズミ、ヒサカキなど	②
カラス	カラス	オナガ	中型 (37cm)	名前の由来の長い尾は遠くからでも目立つ。背中や翼は水色。「ゲェイ、ゲイ」と騒がしく鳴く。群れていることが多い。留鳥。	【樹】イヌツゲ、エンジュ、カキノキ、シャリンバイ、センダン、トキワサンザシ (ピラカンサ)、ナンキンハゼ、ムクノキなど	
		ハシボソガラス	大型 (50cm)	市街地に多いハシトガラスと比べて、やや小型でくちばしが細い。おじぎをするような姿勢で「ガー、ガー」と鳴く。畑や河川など開けた環境を好む。	【樹】オニグルミ、カキノキ、ミカン類、カラスザンショウ、ミズキなど	⑦
シジュウカラ	シジュウカラ	ヤマガラ	小型 (14cm)	クリーム色の頬や赤茶色の背中や腹が目立つ。鳴き声は「ニーニー」。冬に多く見られる。	【樹】特にエゴノキの実を好む/その他、アカマツ、イチイ、スタジイなど	⑤
		シジュウカラ	小型 (14.5cm)	ほおが白く、胸に黒い帯があるのが特徴。木の洞などで営巣するが、巣箱を利用することが多い。留鳥。	【樹】アカマツ、カキノキ、ナンキンハゼ、ハナミズキなど	⑧ ⑩
ヒヨドリ	ヒヨドリ	中型 (27.5cm)	全身が灰色で、頬は濃い茶色。腹部には白い細かい斑が多数ある。興奮するときなどに頭の羽が立ち上がる。「ヒーヨ、ヒーヨ」と騒がしく鳴く。留鳥。	【樹】イイギリ、エンジュ、カキノキ、サンゴジュ、センダン、トキワサンザシ (ピラカンサ)、ナンキンハゼ、ナンテン、ムクノキなど/ヤブツバキ、サクラ類、アロエなどの花の蜜も吸う	表紙 ⑫ ⑬	
ウグイス	ウグイス	小型 (14~15.5cm)	「ホーホケキョ」と聞こえるさえずりで有名だが、「ジャツ、ジャツ」とも鳴く。秋から翌春にやってくるが、藪の中を好むために姿を見ることが難しい。	【樹】ウグイスカグラ、カキノキなど		
スズメ	スズメ	エナガ	小型 (13.5cm)	スズメよりも小さな体と長い尾が特徴。背中と下腹部の一部が濃いピンク色。鳴き声は「ジュリジュリジュリ」。近年街中に定着するようになった種。	【樹】ムクノキなど ※木の実よりも、昆虫やクモなどを好む	①
メジロ	メジロ	メジロ	小型 (12cm)	頭から尾羽まで背面は濃い黄緑色でどは黄色い。脇はくすんだピンク色。目の周りにある白い縁取りが名前の由来。普段は「チー、チー」と鳴く。留鳥。	【樹】カキノキ、トベラ、ヒサカキ、ムラサキシキブなど/サクラ類、トサミズキ、ヒイラギナンテン、ヤブツバキなどの花の蜜も吸う 【草】ヘクソカズラの実	⑨ ⑪
ムクドリ	ムクドリ	ムクドリ	中型 (24cm)	全身は黒っぽい、オレンジ色のくちばしと足が目立つ。腰は白く、顔にも白い羽が混じる。秋の夕暮れに群れになって目立つのはこの鳥。留鳥。	【樹】イヌツゲ、エンジュ、カキノキ、シャリンバイ、トキワサンザシ (ピラカンサ)、ナンキンハゼ、ムクノキ、ヤマモモなど	③
ヒタキ	ジョウビタキ	ジョウビタキ	小型 (14cm)	冬にロシアからやってくる渡り鳥。オスとメスで別の鳥のように色が違うが、どちらも翼に白斑があるのが特徴。渡ってきた当初は、なわばりを確保するために目立つ場所で「ヒツ、ヒツ、ヒツ」と鳴く。	【樹】ウメモドキ、ガマズミ、センリョウウ、マサキ、ムラサキシキブなど 【草】ヘクソカズラの実	⑭
スズメ	スズメ	スズメ	小型 (14.5cm)	頭から背中が茶色く、背中には黒い線がある。顔は白く、頬の黒い斑が特徴。人家周辺に生息する。留鳥。	【樹】カキノキ、クロマツ、ナンキンハゼ、ヤマモモなど 【草】エノコログサ類などの種子	⑥
ホオジロ	アオジ	アオジ	小型 (16cm)	夏は北海道や高い山で過ごし、秋以降に平地に降りてくる。藪からなかなか出てこない、姿は観にくい。「ツツ」とひと声ずつ鳴く。	【草】イヌタデ、エノコログサ類、ミゾソバ、メドハギなどの種子	⑮

小平市で観察できる主な小鳥一覧

小平市では、市内に生息しているチョウや小鳥たちが好む花や実のなる植物を庭に植えるなどして、これらの生きものたちの新たな生息空間をつくりだす「身近なビオトープづくり」を実施しています。

平成29年度及び平成30年度に、公募市民の観察モニターへ小鳥が好む樹木や草花を配布し令和元年度まで自宅の庭やベランダなどで植物を育てながら、小鳥を観察していただきました。

このリーフレットは、市内で活躍された観察モニターが記録した写真をわかりやすくマップ形式で掲載したものです。ぜひ皆さんも「身近なビオトープづくり」にチャレンジして、自宅で様々な生きものたちを観察してみてください。

※1=バードバス…水飲み場や水浴び場のこと  
 ※2=留鳥…季節による移動はせず、年間を通して同じ地域に生息する鳥のこと  
 《参考図書》 清棲幸保 (1966)『野鳥の事典』東京堂出版  
 高野伸二 (2007)『フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版』日本野鳥の会  
 叶内拓哉 (2016)『野鳥と木の実と庭づくり』文一総合出版

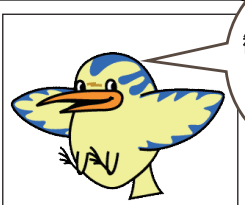


## 観察モニターの実績

観察モニターから3年間で約460枚の小鳥や植物の写真を提供していただきました。多く見られた3種はメジロ、シジュウカラ、スズメでした。この小鳥マップでは、提供いただいた中から、種類が特定できた写真を紹介いたします。※種類の特定は有識者による確認を行っておりますが、あくまでも写真上の判断となります。

### 記録の見方

- ① 小鳥の種名  
(小鳥の科名)
- 名 観察モニター登録名
- 地 小鳥の観察地



観察モニターが記録した小鳥の写真

④ **キジバト**  
(ハト科)

名 飛翔  
地 小川西町5丁目

⑦ **ハシボソガラス**  
(カラス科)

名 RY  
地 小川町2丁目

⑩ **シジュウカラ**  
(シジュウカラ科)

名 K.K  
地 大沼町2丁目

# こだいら小鳥マップ



⑪ **メジロ**  
(メジロ科)

名 M.Tamura  
地 花小金井2丁目

⑫ **ヒヨドリ**  
(ヒヨドリ科)

名 小林  
地 花小金井2丁目

⑬ **ヒヨドリ**  
(ヒヨドリ科)

名 ツピ  
地 鈴木町1丁目

① **エナガ**  
(エナガ科)

名 K  
地 上水新町1丁目

② **アオゲラ**  
(キツツキ科)

名 K  
地 上水新町1丁目

⑤ **ヤマガラ**  
(シジュウカラ科)

名 たはた  
地 小川町1丁目

⑧ **シジュウカラ**  
(シジュウカラ科)

名 だいふく  
地 仲町

⑭ **ジョウビタキ**  
(ヒタキ科)

名 リナ  
地 花小金井南町3丁目

③ **ムクドリ**  
(ムクドリ科)

名 観察日記  
地 小川町1丁目

⑥ **スズメ**  
(スズメ科)

名 RY  
地 小川町2丁目

⑨ **メジロ**  
(メジロ科)

名 SS  
地 上水南町3丁目

⑮ **アオジ**  
(ホオジロ科)

名 リナ  
地 花小金井南町3丁目